おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 24 号（11 月 15 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

一年生大会 山形中央に惜敗？

11 月 13 日（土）、14 日（日）村山地区の 1 年生大会が行われました。山東の一回戦の相手は山形中央。前号にても書きましたが、顧問今野の在籍 5 年のうち、山形中央との一回戦での対戦が 3 度目[1]。なぜか 1 年生大会で縁がある。今年は昨年と異なり、1 年生選手の人数が 16 人とそろっているだけに、「今年は一回は勝ちたいね」と顧問遠藤と話していたが、一回戦の相手が山形中央と決まり、弱気モード。「今年も無理なのかな～」。しかし 1 年生は強気でした。「13 日勝って、14 日に残ります（14 日は進学校大会が行われている坊平には行きません）」と力強く宣言。顧問遠藤も、監督を務めると無敗（2 戦 2 勝）なだけに、今年はやってくれるか。

とまぁ、ここで試合の詳細について書きたいところですが、顧問今野は蔵王坊平で行われた第一回山形県進学校大会に引率で行っていたため、山形中央戦は見ていません。遠藤監督からの話によると・・・前半立ち上がり、左からのセンターリングを CDF が左足でしっかり跳ね返すことができず、クリアミス。そこをしっかり付け込まれ、前半早々に 2 失点。やはり利き足の逆足も最低限「止める、蹴る、運ぶ」ことができないと話にならないこと露呈。特にディフェンスにおけるクリアなどでは浮き球を左足でボレーすることが重要ですが、逆足に苦手意識があり、それを克服しようと必死になって練習していないと、まずロクなボレーができないはず[2]。その後、FK から失点し、前半を

---

[1] 今野が顧問になってからの 1 年生大会の通算成績は、4 戦 4 敗です。

[2] ボレーといってもインサイドでのボレーとインステップでのボレーがあり、後者の方が難易度が高いですが、その逆足インステップのボレーは練習していない選手はまずできません。ジュニアユース年代（中学年代）から高校に入ってくる選手を多数みておりますが、以前と比べ、技術が疎かな選手が多いと感じています。「昔と比べ今の選手は巧い」というのはサッカー界の常識かもしれませんが、それはドリブルなどにおける小手先の巧さしか意味しないように思えます。ヘディング、プレースキック（置いたボールを蹴ること）、ボレー、コンタクトスキル、逆足でのプレーといった基本とされることいずれもが、山形県のジュニアユース年代の選手に欠けているように思えます。中でも**ヘディングと逆足でのプレーは決定的に欠けています**。その理由は、反復練習（ドリルトレーニング）の欠如にあると考えています。**ゲーム形式の練習ばかりすることで、基礎が疎かになっている**のではないかと。必死に加減乗除のドリルトレーニングをしていない人間が難しい数学の問題に取り組めないのと同様の現象が起きているように思えます。「サッカーはサッカーをすることでしか上達しない（サッカーで必要な要素を一つ取り出してそれだけ強化する練習をしてもうまくならない）」とはスペインやオランダの指導メソッドを習得した方々が唱えていることですが、そうした方々も、ドリルトレーニングが不要であるとは述べていません（推奨してはいませんが）。「インステップキックの際は足

０－３で折り返す。山形東高校サッカーOB 会の HP を管理していらっしゃる後藤報道局長も、前半 10 分で「(進学校大会が行われている）蔵王に登ろうかな」との感想を漏らす良くない出来だったとのこと。

後半はやや持ち直し、後半０－０、合計０－３での敗戦。あまり山形中央ゴールには迫れなかったようです。14 日坊平に駆け付けた 1 年生は「惜敗です」と強がりましたが、どうだったのでしょうか。「先輩方も 1 年生大会で勝ち残るなんてことはできなかったし、君らができなくてもやっぱりな、との感想で終わるが、そんな時こそ新しい流れを作り出すチャンスかもしれない」と前日奮起を促したつもりでしたが、日々の練習（指導）不足は否めなかったのでしょう。遠藤監督からは「先輩は 1 年生大会の敗戦から立ち上がったが、君らが立ち上がれるかどうかは分からない、今後の君たち次第だ」との内容のお話があった模様。そう、そうですよ 1 年生諸君。勝利（成功）から学ぶことは容易で、勝つことによって強くなっていくのは勝負の鉄則。逆に敗戦（失敗）から学ぶのはとても難しく、それができるかできないかで長期的な成功・不成功が決まるのです。

結局 1 年生大会は、準決勝で東海大山形を破ったモンテユースと山形中央を破った日大山形の両チームが対戦し、モンテユースの優勝で終わったようです。1 年生諸君、ここからどう立ち上がりますか？

第一回進学校大会　好天に恵まれる

1 年生大会と同じ日程で第一回山形県進学校大会（山交杯）が開催されました。この大会は、主に Y2 に所属する進学校の顧問同士で開催の希望が話し合われ、山形東もそれに乗り、山交グループの協賛を得て、今年初めて実施されました。参加校は山東、山南、興譲館、鶴南、酒東、新北の 6 チーム。11 月の中旬という日程における天気が一番の懸念材料でしたが、両日とも晴天に恵まれ、つつがなく全日程を終了することができました。山東は 2 年生のみで試合に臨み、13 日 1 勝 1 分けの成績で 3 位決定戦に。新北に引き分け、3 位で終了。栄えある第一回の優勝は鶴岡南高校でした。

全チームとも、大会を勝ち上がるという目的だけでなく、強化という目的をもって坊平に臨み、坊平のクロスカントリーコースでスタミナ UP をはかっておりました。大会としては大成功だったのではないでしょうか。来年はさらに参加校を増やして開催するかもしれません。来年こそは山交杯を学校のガラスケースに飾りたいものです。

マダガスカルから感謝のメッセージが届きました

以前この部報にて、マダガスカルに山形東のユニフォームを送ったところ、それが届

の親指をシューズの底につけて足首を固定する」とか「ヘディングの際は顎を引いて顎を出す」などの 13、14 歳くらいまでで習得しなければならない超基本事項を高校生にコーチングしなければならない現状は、とても情けないものです（山形東のレベルが低すぎるのかもしれませんが）。

いて喜ばれたようだとの話を掲載いたしました（HP に写真が UP されております）。続いて、先週、マダガスカルからのメッセージと写真、サインが届きました。メッセージは以下の通りです。

「この度はサッカーのユニフォームを贈っていただき、本当にありがとうございました。贈っていただいたユニフォームを着ただけで、『有名なサッカー選手になったようだ』と皆一様に大変喜んでおります。遠い日本の友だちからもらったこのユニフォームを見る度に、着る度に皆さんのご厚意に感謝し、大切にしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。最後に皆様のご健康とご多幸を、遠いマダガスカルの地から心よりお祈りしております。」

また、マダガスカルに支援を行っているアイユーゴー（国際 NGO）の代表理事の方から、お手紙も頂戴しました。このような内容が載っておりました。

「8 月 19 日に、役場の集会所に行きますと、村の若い人たちが集まり、サッカーのユニフォームを待ち望んでいました。そこで早速、寄贈式を開催することにしました。・・・（略）・・・準備されたテーブルにすべてを並べ、若者たちを前に、世界の中の日本の位置を示し、さらに日本地図を見せて、山形東高校のことを少し説明しました。その後に若者たちにユニフォームを手渡し、記念撮影を行いました。遠くを見渡すと、緩やかな傾斜を整地し、パイナップルを植栽している風景が望めました。若者たちの喜びの声が、壮大な景色に広がって行きました。フィハオナナの中学校、高校に通う若者たちは、即席で習った日本語で『山形東高校のみなさま、ありがとうございます』を繰り返し、『山形東高校のみなさま、マダガスカルに来てください』、『一緒にプレーをしましょう』と高らかに、喜びを表していました。」

寄贈したとはいえ使い古したユニフォームにここまで感謝され面映ゆくなると同時に、山形東高校サッカー部がマダガスカルの若者に喜びをもたらすことができたことに、素直なうれしさがこみあげます。山形東のマダガスカル遠征は日程上・予算上さすがに無理でしょうが、自分たちが日本でどれだけ恵まれた環境でサッカーができているか、世界ではどれだけハングリーな気持ちでサッカーに取り組んでいる若者がいるのか、あらためて気付かされたこのたびの交流でした。アイユーゴーの皆様、逆に我々にとって実り多いこのたびの「援助」となりました。ありがとうございました。

今年度のサッカー部納会日程

本部報の次号が年末発行予定であり間が空きますので、まだ本決まりではないのですがサッカー部ＯＢ会主催の納会の日程をお伝えします（3 年生諸君、よろしいかね）。12 月 20 日（月）の予定です。この納会は、ＯＢ会が現役諸君にすき焼きをふるまってく

れる太っ腹な恒例行事です。なかじま商店にての開催が恒例となっております。すき焼きを頬ばりながら、今年 1 年を振り返ります。見どころとしては、特別のトロフィーが授与される 5 名の優秀選手の発表。今年は誰になるのか、乞うご期待です！